

第35回那須塩原市子ども・子育て会議 会議録

1 日 時 令和5(2023)年7月3日(月)午後6時30分～8時20分

2 場 所 西那須野庁舎301～303会議室

3 議 題

(1)第2期子ども・子育て未来プランの令和4年度実績評価について

(2)いなむら保育園の認定こども園移行について

4 その他

第3期那須塩原市子ども・子育て未来プランの策定について

今後のスケジュールについて

令和5(2023)年度子育て相談課概要について

5 出席者 委員：17名、事務局：9名、計26名

【委員】

佐藤委員、中野委員、君島委員、刈屋委員、人見委員、大倉委員、戸田委員、
佐久間委員、大平委員、後藤委員、白澤委員、染谷委員、西田委員、八木澤委員、
浅香委員、石田委員、佐藤委員

【事務局】

(子ども未来部) 田代部長

(子育て支援課) 押久保課長、亀田補佐、高野係長、小川主査

(子育て相談課) 菊地課長

(保育課) 佐藤課長、吉富補佐、鍋島係長

発言者	内 容 (要旨)
事務局	1 開会 第35回那須塩原市子ども・子育て会議を開会する。
事務局	2 委嘱状交付 代表者1名(佐藤委員)へ田代部長より委嘱状を交付。
事務局	3 あいさつ 子ども未来部長より挨拶

事務局	4 自己紹介 委員⇒事務局の順に自己紹介
事務局	5 会長及び副会長の選任 事務局案として会長に浅香委員、副会長に戸田委員を提案。決定。
会長	6 議題 (1)第3期那須塩原市子ども・子育て未来プランの策定について
事務局	事前の質問に対し所属から回答 (別紙のとおり)
会長	質問・意見等はあるか。
委員	事前質問とその回答について紙ベースで配布してほしい。 放課後児童クラブの平均で基準の 1.65 m²/人を満たしているというのは密のところとそうではないところがあるということか。
事務局	平均というのは、全体ではなくクラブごとでみて、年間の平均で 1.65 m²/人を超えているクラブはないということです。
委員長	資料の改善をお願いしたい。学童関係者が2名いるので、過密さや質について実際の現場の状況をお聞きしたい。
委員	夏休みなど、一時的な利用がある時には、日によって基準を超えてしまうことはあるが、外にでて遊んだりもするので、実際より余裕はあると思う。 質については、支援員は定期的に研修を行い質の向上を図っている。
委員長	現場の工夫でしのげているところもあるが、しのぎきれない学童もあるかもしれないので、市は校庭や空き教室など使用できない学童への配慮をしてほしい。
委員	保育士の確保に苦勞されていると聞いている。また、正規雇用が減り、非正規雇用が増えている。保育士確保に向けた潜在保育士への研修の実施という事業があるが、成果として保育士となった人がいたかというのが分からないので事業効果としてどうなのか分かりづらい。他の項目でも成果が分かりづ

事務局	らいので、表現の仕方などを変えるなどしてももう少し分かりやすくしてもらえると改善策など見えてくるのではないかな。 潜在保育士研修において受講後保育士になった人はいるのか。 昨年度の実績は8人受講したが、保育士になった人は0人。ただ、少しでも掘り起こしをしていくというところで必要と考え実施している。また、市で雇用している会計年度任用職員の比率の改善も課題と思っているので、公立保育園の民営化や廃止を進めて園の数を調整しつつ、残った園に職員を集約して正職員の比率改善を図っていきたいと考えている。別の事業として新卒者の確保への取組も実施していく。
委員	子育て応援券に関する意見。 ・有効期限を延ばしてもらいたい ・使い道としてチャイルドシートが示されているが、退院時に必要なため、出産前に購入してしまうので使えない。ジュニアシートだと購入時に期限がきれてしまい、現実的でないと感じる。 ・市の単独補助であればもっと柔軟な対応はできないか。 ・期間を単年度でなく2年としているのは、頑張っているなど感じる。期限を延ばすのではなく、消耗品も使えるような内容にしていく方がいいのではないかな。
事務局	応援券を作った一番の目的は、生まれてから2年間で子育てに対する負担が最も大きい期間であろうということで、産後ケアなど産まれてからの負担を解消してほしいため期間も2年間としている。今後はどのようなサービスに使えるかという部分を検討していきたい。
委員	不登校が増えている、校長先生がいらっしゃるので子どもたちの現状、充実する点など感じる点があれば教えていただきたい。
委員	学校に魅力があれば、子どもたちは喜んで学校に来ると思うので、いかに学校に魅力を感じさせるかというのをどの学校でも取り組んでいるところ。ただ、一人ひとりの事情があって不登校につながっているの、その子にあった支援をしていくことが不登校を減らすことにつながっていくと思う。
委員	先ほど出た保育士の負担が増加しているという部分について、具体的にはどんな点になるか。

事務局	新型コロナウイルス対策のアルコール消毒や発達支援の子どもへの対応など。市では業務改善というところで、I C Tをこれから導入する予定。具体的には、保育計画をシステムで作ったり、保護者との連絡をアプリで行ったり、登園管理も含めて一体的に使うようなシステムを導入する予定。
委員	I C Tを導入してもマンパワーは必要でないか。あくまで補助的なものではないか？保育士のゆとりは本当に生まれるのか？その辺は本気で考えているのか？
事務局	本気で考えている。ICT が万全ではなく、あくまでも補助的なもので活用する。ICT 化することで同じ情報をたくさんの人の目で見ることができたり、伝達の早さなど効果があるものと考え市では導入する。
会長	議題(2)いなむら保育園の認定こども園移行について
事務局	資料 2 により説明。
会長	質問・意見等はあるか。
委員	1 号認定の定員は 0 人とあるが、世間から見ると他の幼保連携型の認定こども園と同じような施設とみられるのではないかという懸念がある。1 号認定の定員 0 人というのはいつまで続くものなのか。また、1 号認定 0 人で幼保連携型として県で認められるものなのか。
事務局	県の認可については、現在市内の施設で 1 号認定 0 人で認められている認定こども園があるので、問題なく認可されと考えている。1 号認定の定員の設定についての考え方であるが、基本的にいなむら保育園は保育園のままであるのが一番いいと考えているので、1 号認定は必要ないものと考えている。今後もしる予定はないが万が一設定する場合には、この会議に付議したうえで決定することとなる。同様の施設とみなされてしまうという点については、ガイドブック等で各施設の特徴を出していただければと思う。今回は保育園の保育の継続が主旨となるので、ご理解いただきたい。
委員	今回の場合 2 号認定の人が 1 号認定になりたいといった場合にも、1 号にはなれないということでもいいのか。

事務局	1号の定員がないので、それはできない。そういった場合には、一度退園し、1号の設定がある他の園に移ってもらうこととなる。
委員	適正配置の基準が崩れてきているのではないか。市として考えていることはあるか。
委員	市としてできることは公立保育園をどうしていくかという部分になる。施設の廃止など市の施設を調整することで、適正配置、提供体制を築いていきたいと考えている。
事務局	7 その他 第3期那須塩原市子ども・子育て未来プランの策定について 資料3に基づき説明 今後のスケジュールについて 今年度はあと2回、10月と3月に会議を開催予定。 委員報酬と旅費について、報酬は1回あたり、7,400円、旅費は自家用車の場合、1kmあたり30円の支払いとなる。 令和5(2023)年度子育て相談課概要について ピンクの冊子は昨年度の子ども子育て総合センターの事業概要、実績をまとめたもの。子育て相談課概要別冊は昨年度の西那須野保健センターの母子保健事業の事業概要、実績についてまとめたもの。
事務局	質問・意見等はあるか。
委員	毎年、虐待やDVの件数がかかっているが、新規がどれくらいかというのが知りたい。新規が増えているのか、継続が増えているのかによってとらえ方が大きくかわってくるので、その辺も検討していただきたい。
事務局	次年度は1冊にまとめていく予定なので、いただいたご意見を踏まえながらより分かりやすくまとめていきたいと思う。
事務局	8 閉会 以上で、第35回那須塩原市子ども・子育て会議を閉会する。 以上

